



視察日時 | 令和5年12月22日（金）午前9時30分から正午まで  
 視察先 | 北方町役場～北方町立北学園～北方町立南学園

総務委員会（議員10名）及び三品教育長・教育委員3名ほか総勢16名で、坂祝町将来の学校・教育のあり方についての先進事例を学ぶため、北方町義務教育学校の視察を行いました。

最初に洒落てモダンな北方町役場において、北方町議会井野議長より「改修案から新築案に変更した結果、長期返済が残り、これからの財政の舵取りが大変だが、借金してでも新築して本当によかった。教育は建物と異なり目に見えないが一生背負っていくものであり、町として最善を尽くすべき。」というご挨拶をいただきました。

次に郷教育課長よりご苦労話を交えた懇切丁寧な説明をしていただきました。

① 北方町は、小学校3校と中学校2校を義務教育学校2校に再編。併せて、幼稚園と保育園をこども園に統廃合した。

② 2017年（平成29年）北方学園構想を発表し、設計・建築工事を経て開校・開園したのが2023年（令和5年）4月。ここまで足かけ7年かかったとのこと。

③ 合計8か所の校舎新築・改築・解体工事総額が、28億6千万円。視察時新旧校舎の接続部や増改築部のあちこちに費用削減の工夫が見てとれました。設計された建築士のご苦労が手に取る様に伝わってくる建物でした。

④ 現在開校・開園後9か月経過し、教育システム変更の過渡期であり、今後2～3年は経過観察が必要で、新たな課題に対応する体制を取りながら子ども達を見守っているとのことでした。アフターケアの重要性が伝わって来ました。



▲あいさつをされる井野議長（北方町役場）



▲併設されたこども園（北学園）



▲広いテラスのある校舎（南学園）



▲明るい図書室（北学園）

次に、坂祝町議会からの質疑・応答を行いました。 Q:坂祝町 A:北方町

Q:義務教育学校を目指した最大の理由は？

A:小中一貫校化によって、新しい環境になじめない「中1ギャップ」の解消や教科担任制の導入による学力向上を目指すほか、施設の効率的な活用による町財政負担を軽減するため。

Q:教育システム移行時発生した問題点とその解決策は？また、後発の地方自治体が事前に準備しておくべき注意事項は？

A:それぞれの自治体固有の課題と思われるので、保護者や児童生徒 地域住民に対して「丁寧に」説明を行い、顕在化した問題には、「その都度必ず」具体的な対応策を検討し実行する必要がある。

Q:従来の小・中学校システムに対し義務教育学校のメリットは？

A:①7・8・9年生が小さい子ども達と接することで、落ち着きが出た。

②5・6年生の教科担任制が子ども達に好評である。

③中一ギャップがなくなったが継続注視していく。

Q:従来の小・中学校システムに対し義務教育学校のデメリットは？

A:①6年生の活躍の場が減る⇒7・8・9年生と共に活動することで 新たなモチベーションづくりにつなげようと試みている。

②中1での新しい出会いがない。



その後、北学園、南学園の順に校内を視察させていただきました。内装に木材を多用し、広い廊下と採光豊かな明るい校舎というのが第一印象で、そこで学ぶ北方の子ども達の生き生きとした笑顔が浮かんできそうな素敵な校舎でした。

最後に広報編集委員長より、今後の北方町義務教育学校が紡ぐ新たな歴史にエールを送りつつ提案をしたいと思えます。

それは「校舎の木質化の効能」についてです。

坂祝町将来の学校のあり方検討委員会の座長である岐阜大学教育学部古賀特任教授によると、「校舎の木質化は、子ども達のストレスや疲労感の緩和によりいじめや不登校を減少させ、眠気やだるさを著しく減らすとされているので、総合的に見て学力の底上げの土台となりうるのではないか。」とのこと。最後は費用との相談になりますが、将来の子ども達のために、計画段階でぜひ議論していただきたい案件だと思います。



▲木を使った広い廊下(北・南学園)

## 【議会活動報告】 加藤県議会議員に要望書を提出しました

12月22日午後に岐阜県庁(議会棟)を訪問し、加茂地区選出の加藤県議会議員と面会し、一般国道248号線バイパスの4車線化の事業促進及び町内区間(大針地区)の早期着工を要望しました。本件は、自民党中濃県議団が11月30日に古田県知事に提出した「中濃圏域における各種施策実施に関する要望書」に含まれており、今回、坂祝町議会から再度、要望を行いました。

